

おそれるハ代々の野山のまきる京 依年
 水辺やうらまは遠とあけて笑く大津 末く
 庭中ふ笑うやうや花一本 其桃
 印書にふいふセタ ちのちのち
 ちのちのち十二八 ちのちのち
 水に流るる名張 ちのちのち
 ちのちのちイセ ちのちのち
 ちのちのち京 ちのちのち
 ちのちのち備美 ちのちのち

是の芝の、廣き、ひらうや、佇笑の自大川 米友
 備ふまを、さき、さき、あはれ、こゝろ、ひらう、花溪はな
 考さう、さき、さき、さき、さき、さき、遊之
 あさう、ふらう、あはれ、夕アの、静か、な、免笑
 取入、さき、備ふ、や、らう、さき、省甫大ツ
 友の、更、て、まゐ、る、ほ、ろ、月、の、光、り、か、咸菑イカ
 み、の、舞、の、音、ハ、ま、さ、き、は、な、う、虫、撰、欽高イカ
 虫、鳴、や、な、あ、な、ら、う、ら、う、さき、の、尾、在、峰イカ
 折、を、好、ま、家、と、子、向、ま、藤、原、湖、祖
 さ、う、鳴、や、岸、の、虫、成、こ、と、ろ、墨、石

ひらの、ま、ま、あ、う、ら、う、市、村、の、門、梅、洞
 志、は、あ、ら、う、と、中、も、父、り、ふ、の、舎、雲、海
 静、か、書、巻、の、ま、お、さ、ら、あ、ら、う、る、華、菜、女
 泊、り、舟、目、を、保、あ、ら、う、秋、の、あ、ら、う、イセ 金山
 清、き、う、ら、う、ら、う、ら、う、さき、大、つ、あ、ら、う、
 朝、鳥、合、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、冬、雨
 心、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、梅、の、花、地、萩
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、秋、の、光、死、月
 あ、ら、う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、花、月、夜
 何、は、ら、う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、イセ 假、乐

何れも... 残山^{イセ}
名月やき... 起蝶^{ナハリ}
何れも... 素人^{水口}
海坊と... 田瓜
古く... 笑山
業の... 一風
若れ... 氷石
あし... 芝玉
又... 米山
朗... 武岳^{ナシ}

下又三

色... 赤風
可... 秋水
限... 東阜^{イカ}
ろ... 市友^{ナハリ}
持... 浮橋^{イセ}
い... 松山^{ナハリ}
け... 秋翁^{ナハリ}
灯... 進藤^{ナハリ}
赤... 龜友^{ナハリ}
和... 八子代^{イカ}

笑和さる面白くはくけふ雨ふれ イカ 田山
 秋風の松ふおとさる時雨ふ イカ 如九
 草枯くさるゆもせさる和志くれ イカ 頌風
 一更ハ雨ふさるくた知まうれ イカ 其月
 鈴着ハ雨ふ中けふつ塚め家 イカ 去実
 雨あしつらら 伊知るの十日 イカ 晋支
 のねさるさるさるさるさるさる イカ 徳若
 雨さるれに松ふけふ雨のさるく イカ 秀舟
 灯をいさるさるさるさるさる イカ 清崖
 けふさるさるさるさるさる イカ 田彦

下文二

秋さるさるさるさる イカ 陶年
 むのさるさるさる イカ 馬都雄
 さるさるさるさる イカ 淇水
 秋さるさるさるさる イカ 玄浦
 あまのさるさるさる イカ 米園
 秋さるさるさるさる イカ 猿人
 秋さるさるさるさる イカ 蛾業
 秋さるさるさるさる イカ 月経
 秋さるさるさるさる イカ 宇江
 秋さるさるさるさる イカ 淇石

ちのまゝも 汝程ふー ちのまゝのまゝ、 梅西
 煉の如のぬききー ちのまゝ、 青崖
 旅麻ー ちのまゝ ちのまゝ 遠 砧 ^{大坂} 松月
 塚のちのまゝー ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ
 吹風乃 汝程ふ多伏芒 ちのまゝ 人未
 舞のちのまゝ 静 ちのまゝ ちのまゝ 正木 ^{イカ}
 ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 日世 ^{イセ}
 若虫 ちのまゝ 動 ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 珉堂
 ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 代女 ^{イカ}
 人 ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 其 燕

ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 美躬 ^{セツ、}
 いち 沈月のちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 双木 ^{上ノ}
 甚半 ちのまゝ 老のちのまゝ ちのまゝ 高山 ^{白雲}
 唐庭へ ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 一斗
 ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 梅棠 ^{イセツ}
 香花 ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 柳 ^{ナニハ}
 ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 杏裡 ^{上ノ}
 年を ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 月波
 咲 ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 其 容
 枯枝 ちのまゝ ちのまゝ ちのまゝ 宇弘 ^{エチコ}

其れなりと玉と持らん蓮のあ 白川 如休
 手續いきほりそとほを燈籠の 法外
 のちるほと山のうんきあ天の川 柏石
 小をほよしてハ大きおちうが 我幸
 風阿とや月のあこあよやのち 楓下
 きこも(寸啼)く絶くき塚の本 一北
 ちう敷の咲てかなくや塚の崩 巴城
 葉山子かと思れハ和や細め人 晋尺
 三日月のひこりみささめなれ 亭く
 四方くくちうきくたり 雲の玉 玉彦

入相の鐘際ありや花のこち 笠峯
 多向くやくふ木の塚り 芳禾
 栗津くくやともふや秋討る 蘭圃
 月集のあを多向む 松丘
 古塚の苔よあふるやむの 塚
 一しころ法集 芦岳
 掃うち又直もや 鷺洲
 散てのあおとや 松臺
 合もよみぬ 米室
 一もたふ 月溪

新嘉坡 野山 越とさ 能を向う形 チクセン 為一

たふ 記母り すす 能形さる 越踊り ハカ 十作

まよと 未と 控 古竹のり ぬらう 申 イセ 休す

この 切し とらふ ぬらう 十二日 イセ 文お

みし 差も 消て 年 降る ちの玉 奥及白川 半虫

昔 越 経くとも 名くそ 高き 花 鶴の花 イカ 休山

葉の 糸 花 有り くる ちの 健 任 居 ナニハ 民能

新 越 戸 越 越 へ 入る 七の 日 糸 ちの イカ 里石

ひ ちの ちの ちの ちの 越 越 の よる の お と イカ 赤石

まよ いろ ちの ちの ちの ちの 越 越 の お イカ 陽化

向 赤 赤 け ぬ 向く ちの 越 越 赤 イカ 紅虎

古 池 の お と 越 越 ちの 越 越 の 月 イカ 赤全

とら ちの ちの ちの ちの 越 越 や ちの 山 イカ 揚里

向 ちの ちの ちの ちの 越 越 の 松 イカ 湖水

新 越 越 ちの ちの 未 ちの 初 ちの ちの イセ及居 石寫

ちの 越 越 ちの ちの ちの ちの 越 越 イセ及居 一瓢

阿 伽 の ぬ ら 向く ちの 越 越 の 越 越 イセ及居 花す

あ さ ちの 越 越 の ぬ 向く ちの 越 越 イセ及居 糸瓜

月 越 越 越 越 越 越 の 越 越 の 越 越 イセ及居 芦江

松 越 越 や 越 越 の 越 越 越 越 越 越 イセ及居 赤商

先母を志し〜るる村〜るれ 三品 汝皇

さきねかと大きくとね〜から凡巾 江ノ 賞雪

昔も〜と古の塚やま〜る〜る イカ 三笑

音のうら志す〜のつ〜ぬ海〜る イセツ 三

とま〜る〜る〜るの風を〜る〜る イセツ 一蝶

いろか〜ぬ母この昔の〜を海望の松 東宇

望り満る月越〜る〜る向〜る 雀豊

花とま〜る〜る〜る〜るや尾巻陰 露丘

遠近のま〜る〜る〜る〜る 但西

枯枝よいゆ〜る〜るや〜る〜るの声 梅通

下七

ま〜る〜とま〜る〜お〜る〜るの音 平松 有隣

眼望のれ〜る遠山おはは〜るの歌 菱毒

目を〜る〜る〜る〜る〜る〜る 二芳

木犀と花を名〜る〜る〜る〜る 如声

曉るま〜る〜る〜る〜る〜る〜る イセ自子 乙潮

柳散る〜る〜る〜る〜る〜る イカ 松石

桐一葉を〜る〜る〜る〜る〜る〜る 一歌

え〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る 流牙

大松のま〜る〜る〜る〜る〜る〜る 花鏡

喉は〜る〜る〜る〜る〜る〜る 白子 春兩

つらさうふや腰を容のきとまゐる イヨ 馬雪

寝はけ垣ともうちやあふの月 和歌 霜玉

あさなほ成えさるもよ水せりあ 花塚

ハもや門のねふともるゆ風 掠者

穀はと山まふささくけやあしあ 露江

いろくの虫まきおくまの尾 イカ 四好

一枝をま向とまねや盆の月 イカ 哥月

かたきなく念佛のあや盆の月 少年 由花

ま向まわいまこほふこの葉なう 名張 明

四方は方若むま塚やほゆの玉 名張 の権

下

おたうく笑を満まわ イカ 辻角力 五鈴

一株り跡をこまへたる月の花 イセ山田 吉雲

まらふ葉は風情あまなるうら 珠又 松雪

腕の葉ままへま〜墨のまゝ形 珠又 老波

みのむしのこのまふるやまゝくさ イカ 文會

やらせたる風やいさよふ浪うら 珠又 半山

とさくの思ひや塚又塚の風 十二八 信や

流〜ときるささや秋のま 七十六又 桑湖

あさうふの掬いのまきとみりうら イカ 野池

湖り又、たゝるやりのる イカ 圭系白

月花の白ひい、影しく志らぬの日 イカ 松青
 秋首も昔中より一秋のしく 上 木高
 古池のたづみ 残ほむこゝろ ムクケツカ 峨川
 一くまれきて月さす枯れぬ ムクケツカ 如光
 取らへきまゝの花や女帝も イカ 女
 夏のをむ何ほくらえても 任 徳橋
 山菜とよ一まきい イカ 千圭
 来あてあて イカ 秋雨
 那一あ 法 其由
 必りや松い イカ 雲袋

枯るかゝ名といふとも イセ 于仲
 名月や イセ 木父
 後の子 イセ 介人
 客日 イセ 如童
 淋しさのついで イセ 板子
 又と イセ 岐嶽
 鳴りて イセ 里玉
 見て イセ 箕玉
 新と イセ 芦潮
 むし イセ 蛙跡

眼減なすくともあらえよる夕日イカの魯州
 みのちやそ昔もよるみイセ山田十の瓢声
 おういふそく人の夢はけし和又相一
 山寺のまゑふ舞くや百子とり上双司
 花上（と奥もむし）の荷えん馬邑
 雲吸てほゆをあらうきりくイカ其山
 そその花月の出れは直さう上南畝
 をを減忘や花の文字減む向ま上交頂
 史陰り生と五よりちとけの舞イセ賦了
 けさうくさくおくほりイセおの井 清澗

【F十】

山のけりよむらうまゐるや虫のむイセ冬を
 横障ふ向ふまゐるや波りるイセ十瀬
 おのつゝいふらめさるる夜さくイセ可原
 推新本のあもるるふえりイセ南 照重
 ともろもさうさかすの塚の翁イセ花魁
 みのちやる五十年の言を染ふイカ湧水
 朝なるそやみのちの遠き言イセ雀容
 るけ夜いとむれかちをあつイセ松涛
 り舞やおたうくおまイセ陣の竹 蜀躬
 侍てみるちえりやまイセ花を 季好

合さるのよこよこはあきらめいふ いかに 和月
 兼重能音をねくらあ塚の前 涼氏
 遠慮のあきくぬえなれいふ 大り 月躬
 店き地ふくまきく葉のぬひが イカ 素寛
 少ながらぬ目と足りいふあきらめ 石 石松
 旅なれいふ葉のあをふ向ふ 女 春枝
 子向てる吉幸をふや蘇り花 枕 真盛
 古くせ乃新うりり月夜 女 町子
 来る年も又来る年もさくら モクケツカ 外月
 いさへの神の佛をいかに イカ 玉舟

澄るる月とこもやとくの牧 観 観松
 木屏のあやむいふいふも 北 北旌
 静気の名をいかにいかに 石 石山
 き甲乃いかにいかにいかに 西 西井
 梨あきらめいかにいかに 時 時人
 顔もいかにいかにいかに 南 南甫
 蘇のほむ祝いかにいかに イセ川 省未
 七やいかにいかにいかに 枕 枕友
 美ふいかにいかにいかに 如 如風
 いかにいかにいかにいかに イセ 玉圭

志多しはあ枯那の星哉むい今 ^{イセ} 石菖
 庭の露まほしけりうとおもひ々あ ^{イセウ} 梅片
 い川さうともあけあさうに床の上 ^{イセウ} 主系態
 夢さる先飾る清やや朝を新 ^{イカ} 米花
 けのちるまゐいむい秋の風 ^{イカ} 如扇
 掃ふさすや野ねのあきの風 ^{イセ} 蒼海
 手紙抄くさるや種ねのあ甘る ^上 杞柳
 まれあふあえさる月おや二る清 ^上 儿凉
 根をさけさるさるやさおほえさ ^上 東柯
 竹の清さくさるさるさる秋の風 ^上 秋芳

志多しはあ枯那の星哉むい今 ^{横只} 回阜
 庭の露まほしけりうとおもひ々あ ^中 桐古
 い川さうともあけあさうに床の上 ^{十二ハ} 双馬
 夢さる先飾る清やや朝を新 ^{イセ} 暮菊
 けのちるまゐいむい秋の風 ^{和系系} 気逸
 掃ふさすや野ねのあきの風 ^{十二ハ} 真菊
 手紙抄くさるや種ねのあ甘る ^{江只} 牛窓
 まれあふあえさる月おや二る清 ^{イカ} 真哉
 根をさけさるさるさるやさおほえさ ^{イカ} 鯉尺

おくちあゝ時りやうやつりの昔 虎
 親夢と掠りこころやぬこころ 清舟
 杖まきとまけし月るる今昔哉 古瓢
 阿のそやきまれの宮へ古く塚 春應
 井のふこのつらきうら秋のまへ 不山
 き新を現けハ庭しそまもろ 外雪
 まあゝ飛つてなつてさるや虫の音 白戸
 道法のききとまや飯のる イセ
 飯涼く来て済ぬや塔の影 陰
 風まきつて我寤れおちりあ 和
 柳亭

百系年まもろやたすき 十六
 人々似し物のまろや初時 七浦社
 葉々香しおとろく日初し 棋
 まろけをまこひ葉ふや停賀の山 志
 久ふとけ風のまろや塚の跡 成私
 まろけハ節てとまろ 和
 まろふとつてまろ 金
 衣の香もまろれらふ花や山急路 里
 智明のまろのまろ 江戸
 花本権せまてとまろ イカ
 雀貞

美くけりさるるや 衣の玉ころり
 鳥徳 イカ
 さらけらると若きる 露の玉まらり
 昨兆
 なき人のきこしと衣の玉まらり
 吸眠
 法とも神と志とれり 露の目
 二喜
 露忌やおかしく 神と衣のたぐ
 松風
 一喜りさると破れり けしき
 照子女
 野と群とささけりや 赤穂松
 一喜
 繪書やお明の鐘乃びきき
 あじ女
 とも草や何きの 松の衣や
 汀沙
 都々とも月の月あり 袴中
 三樂

衣と勢れは筆のけきや 秋の風 イセ
 衣屋
 竹を入る 釣場 浅き 燈籠 屋カニ
 紫者
 る時とけりあのみ 露 浅き 向ふ イセ
 浮石
 よろよへ 浸しとるや 相一系 イセ
 桂川
 付る 衣の冬 秋りを けり 夕時 イセ
 禿友
 淋しこの 坊と 服のつくが イセ
 蝠牛
 衣の衣と 露 浸しとる イセ
 潮衣
 松をとり 衣と 浸しとる イセ
 松衣
 露をとり 衣と 浸しとる イカ
 巴水
 濃なきて 月の 暉く けり イセ
 半日産

日と交る一箇をくまきんイセト亭
 ともねのくまきんか枯桔梗 玉湊
 やかられしともねの秋の月 琴海
 年と交るくまきんか秋の月 秋高
 百五十年のくまきんか春篁 春篁
 明、孤月出るかかみちの松 筍孝
 ふとらほき風くまきんか倚松 倚松
 麻吹くまきんか可楽 可楽
 日と交るくまきんか花盡り 孤玉

月漏る流むくまきんか富士の山 夢松
 不ららくまきんか洗枝 洗枝
 枯葉もやより白くまきんか山石 山石
 東やの遠や古流の苔のくまきんか流逸 流逸
 菖蓮やかまきんか玉水 玉水
 香炉のくまきんか喜月 喜月
 家々地々くまきんか竹隣 竹隣
 いふくまきんか秋の夕 花生イカ
 おもひ森のくまきんか新阪 新阪

里け言のきも半人のやふる紀序 如友
 葛城けおくもくく家のけくう新 柳夏
 世の垢散ぬくく残糸と成るくち 九鼻
 くのきりなき言や骨乃かたなき ^{イカ} 梅花
 序のつまひくく遠るもき代りぬ 白山
 蓮广急や葉の枯本をぬくくあ 菊花
 破れ元の序又傳る糸の垂ぶ 春
 きいりいと秋をえとくち梅の雪 歌主
 十分二月をのせくち蓮の家 歌乐
 おもくくつ井いぬもくく一帯のむ 柳水

けりくくと庭まてくく清き水 ^江 庭莫
 ふまもくく親くあくちやも葉の型 三寿
 去ぬ点あくく雪吹の舎根水 梅園
 はくろもぬ婆やくくた型あくくあ 千外女
 喜遊のくくるく遠くく垣くくし 素園
 時くくくく七姑くくも向のあけ上 俵丸
 詩くくあくくくくくくく危きくの梅 希香
 井戸海き車のきやるけりも 寿光
 遠くくすくく時あくくあくくや十二日 古燕
 折くくけくくもを体くくく 柳様 一裁

此書中の様ありし中樞の本 に石 素竹
 元米のなき星りく陸に秋 南幸
 旅人乃かきの古印中袖志く身 成隣
 東人へし口をかきく危菊の花 内都 奇道
 額より家と塔し中 鈴 宿 塩里
 初かきよしき之傳ん手向叶 任丹 紫金
 風の詠進ふ声や 都 多 田澄 江戸
 額法ありてと枝きけん初紅糸 喜峯
 風ましの多事く危 原 嗽石
 夕立如初やすくき浦山五月 イガ 十朋

生んしとみよとくく木年の雪 玉澗
 古池のむろゆろしや露草一 孤琴
 雲死と川おそひあそく月と梅 フシ 梅塙
 渚しき糶のく斗や水の流去 梅遊
 日あふきや風有そくたなをふのりきみ 梅旭
 けいふりい花しそくんこき 梅巖 梅民
 木肌の花あそくやゆろく葉うさ 梅峰 水戸
 今替く枯木捨ふやけきけき 梅丸 河内
 神やうく吹くくくあきききこれ 梅峯 梅民
 門口残掃くくくく祝むらぬ 日形石

せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん
 いの 来 来 来 来 来 来 来 来 来 来
 虫の 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴 鳴
 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯
 山 里 山 里 山 里 山 里 山 里 山 里 山 里 山 里
 人 な れ 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又
 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
 古 古 古 古 古 古 古 古 古 古
 る 晴 け ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 き け け け け け け け け け け
 如 月 鼎 子 一 東 一 志 一 月 水 月 柳 水 豊 庭 芳 里 葺 我

相 一 葉 ぶ お ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 出 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 舞 風 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 半 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 志 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 神 送 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 恙 竹 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 被 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 夕 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 花 経 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 風 路 曉 馬 角 松 堤 六 花 紫 西 路 曉

松と世も玩きと出りさくらも
 散るくくく森猪もとうく交の月
 春ふ夏と回くくくふ月う形
 松と世も玩の志くれとくれりあり
 蓮池へ足踏はふく遠入りあり
 阿まき風やまきと張之ぬ破障子
 我の斗の月と更けおとくあり
 名月の海のもちこきおこりあり
 ひより家の傾く刺やうれ尾花
 狩人の笑なまきくや十あり 証

下九

大さくくく月とんくくときぬくく南
 そのむくくや人の通れは物くくあり
 香の香のく井きくく清く秋の空
 穉は白や清ありくくく梅のそな
 涼くさや舟く梅を押してし
 又つめてく袖はぬくくや塚の墓
 更るおくくくくく流くや虫の音
 床鳴くや山のくくくく 在所
 高きくくくく入きく花ゆく果もなき
 名月や海詩くくくくくく 巴水

南柳

其柳

イカ 懐子

梅子

山寺

旧律 南河

其石

升里

荒雨

巴水

新しきまきし出まきしちきり
 玉川
 橋のりてふまきし川やせの峰
 玉仙
 招新しむまきしまらるる
 武友
 あさきまきし風まきし角
 春外
 月涼しりりし
 兵徳
 尾まきしてハ大きし蓮の花
 作友
 古井元のむしし
 花露
 風花しり吹ぬ新まきし
 九山
 まきしまきしまきし
 春鷺
 穂まきし風まきし
 蓬山

月

ふまきしまきし塚の四隅まきし
 大江
 子のまきしやまきし
 雪阜
 秋るやまきし合し
 若枝
 小まきしやまきし
 喜水
 用おまきし中まきし
 野色
 川野やまきし
 薄糸
 洗の場の大板まきし
 善枝
 まきし
 四沢
 人まきし
 虚受
 山の井やまきし
 不意

芭蕉葉の影を大きくくまの月 杜若
 蕉徳より慕ふまゝ白や千日紅 玉衣
白沢ハミレ
 生中より清くくつるや月の舟 五声
京
 花より静の影をくまの月 春英
和云知
 白蓮をきくうぬ世代より月のち 里水
城員和東
 なつこくへく又ともふゆんまの衣 柳水
 不意と服のちれい影をくまの蓮の衣 イロハ
 とちりくくへく又ともふゆんまの蓮の衣 惠水
 世より静の影をくまの月 守白
 ちりくくへく又ともふゆんまの蓮の衣 如芭



日のおむわりくまの影をくまの草 永年
イカ
 花より静の影をくまの月 玉衣
 ちりくくへく又ともふゆんまの蓮の衣 玉壽
 とちりくくへく又ともふゆんまの蓮の衣 ねち
 拂さへまれの影をくまの月 之彦
白沢ハミレ
 又のちりくくへく又ともふゆんまの蓮の衣 潮仙
下アウ
 花より静の影をくまの月 玉衣
イカ
 二きりくくへく又ともふゆんまの蓮の衣 花音
白沢ハミレ
 子より静の影をくまの月 角洲
イセ
 朝より静の影をくまの月 白志

奥むしりて續古みや秋のゐ イカ 巴水
 流のおとやや 江戸 流のさ イカ 一東
 夏より イカ 流のさ イカ 一東
 流のさ イカ 一東
 凡そめの木 一身田 撞路
 笛そへる ねサカ 月山
 あき風や ねサカ 月山
 又も ねサカ 月山
 月守
 喜山
 弘米
 うら 下四

ちぢらんとおもへ イカ 袖園
 ひやの イカ トシ風
 一枝 イカ 京女
 湖 イカ さと女
 ち イカ 棠花
 ぬ 伊豆伊保 吐雲
 ち イセ山田 標山
 燃 江戸 喜る
 月 サナク 友之
 載 イカ 白瑠

はるれとす新よも葉けらぬひの秋 千尋 一州

すえしとくりふらふらるる風の月 新玉

まよ銭もやんおきななき初出念 作及土井 蕙園

合ふもこそしつとておのさぬれあ ワタリ 瘵人

うきれなき目もひらけはく牡丹うれ ナツキ 松尾

虫の言け増えりなち海戸の秋 青山

こゝろもくと歌も葉枯れぬ家ぬ 作及勝中 ノノ

小なれはふら露れとくおきんが 滝車 柳葉

来てくれいさな城おのふ塚のあ 千尋 源就

銭して来こ心おそふや縁の風 嵐夕

ると晴き月と出露のやまを原 トお

力あゆふふ葉ももそしつ日 は戸 水海

やと半よもてある志くれふ 馬 馬声

傘持とて枯松ありあつきのぬ 柳菟

相け紫み敷るや日影を交なから 艾園

法修りふあまきし 千尋 文水

きとけや封のちききし帯りけ 千尋 狹小

控て月のまき銭け新の原 イカ 芸事

夢もや雪はくし イカ 理風

きてり イカ 新のあけや縁のあき 知是

軍やとく年をまきくわあ、あゝの声 り新 小籠

見ましく多折 秋まやあゝの侍 イカ 丁多

松風のいこし 詠まやあゝの侍 東武源河松風六世 松多

此秋ハ月又ふあゝる 十二 江戸 狩昌

こゝろと ながさく 塚のまゝりくす イセ豆 月園

此あゝる品やう さまゝ草草 江戸 狩丸

いつとことらゝあゝるやうの月 後藤 桃枝

とあれまゝあゝるあゝる塚の郭 雪江

松風のあゝるあゝるあゝる月又くあゝる 一虎

急とあゝるやとあゝるあゝるの月 一虎

朝夕の日多はれなくもあゝるあゝる 江及カ 一省

とあゝるくもあゝるあゝるあゝるあゝる イカ 菅之

あゝるあゝるあゝるあゝるあゝる イカ 浦春

木犀のあゝるあゝるあゝるあゝる 上ノ 松嶋

あゝるあゝるあゝるあゝるあゝる イヨ 禁人

そのあゝるあゝるあゝるあゝる イカ 曹権

あゝるあゝるあゝるあゝるあゝる イカ 蒼芥

豆あゝるあゝるあゝるあゝる イカ 蒼鏡

あゝるあゝるあゝるあゝるあゝる イカ 蒼鏡

あゝるあゝるあゝるあゝるあゝる イカ 蒼鏡

あゝるあゝるあゝるあゝるあゝる イカ 蒼鏡

春のさくらも 梅のつぼみも 柳のつらねも 茶屋
 跡のつらねも 花のつらねも 古洞
 川のつらねも 板のつらねも 鶉
 鳥青
 この山の手も 麓のつらねも 石門
 一七四
 舟のつらねも 川のつらねも 志保丸
 二一
 苗代や人よまのつらねも 吟月
 一七五
 石よまのつらねも 入るほのつらねも 虫の声
 其声
 唯なるのつらねも さひや秋のつらね
 洗る
 海山のつらねも けのつらねも 洗のつらね
 三三
 遠きさのつらねも 登本のつらねも 船のつらね
 其声

兵士のつらねも 鶴のつらねも やうらのつらね
 就橋
 雁のつらねも 斗のつらねも 小つらねも やまのつらね
 一三
 田のつらねも 水のつらねも 初つらねも 芒のつらね
 不徴受
 今つらねも 昔のつらねも 新のつらねも 塚のつらね
 元枝
 さひやのつらねも 月をさひやのつらねも 鹿
 一七
 さひやのつらねも そのつらねも 秋のつらねも 風
 実作
 城及カキキ
 さひやのつらねも 辻のつらねも 米
 十二八
 十文
 さひやのつらねも そのつらねも 芳のつらねも
 斑竹
 さひやのつらねも 藤のつらねも 花のつらねも
 斑竹
 さひやのつらねも 梅のつらねも 花のつらねも
 斑竹
 さひやのつらねも 柳のつらねも 花のつらねも
 斑竹

かけわけ〜ね〜えんさす志くれふ 石采
 今〜あ〜い〜く〜や〜き秋の心ふ 京 孤心
 朝〜や〜あ〜ま〜ひ〜川の橋もけ ナニハ 素梅
 春宵の中ぬ〜と〜く〜す〜あ〜葉うれ セツ 鼓松
 夏朝と玉もま〜あ〜ふ〜や〜塚のあ 治松
 古塚れ〜ま〜ら〜や〜ほ〜ふ〜まの花 急
 名とさき塚ら〜ら〜く〜枯野〜角 鯉昇
 一帯の玉ま〜えて〜き〜も〜よ〜の昔の下 家壽
 散ぬれと名〜ら〜く〜や〜ら〜の草 風子
 曉の〜子〜や引坂の花と〜こ〜い〜き 白俄

正先

香〜あ〜ふ〜葉の〜ら〜わ〜のぬれ雀 鶉眉
 小池〜あ〜さ〜や〜ら〜く〜く〜小〜花〜ふ 福老
 朝〜ほ〜や〜く〜さ〜え〜こ〜い〜く〜珠〜く〜ひ 赤紫
 夕〜の〜き〜く〜登〜る〜雲〜ら〜や〜昔のあ 耕や
 少〜人〜ま〜の〜系〜ま〜く〜登〜ぶ〜ま〜む〜い〜れ 白路
 古木〜ほ〜く〜移〜色〜ふ〜く〜く〜も〜く〜ら〜ふ 白居
 東〜や〜の〜雲〜く〜こ〜こ〜入〜る〜花〜ゆ〜る〜唇 芳月
 日の終れ〜ふ〜い〜踏〜さ〜く〜移〜む〜る 江戸八日市 十子
 一舟の岸〜磯〜石〜れ〜表〜あ〜ら〜ら〜あ 孤良
 夢の〜あ〜い〜ひ〜く〜も〜く〜く〜散〜る〜る 伊ヨ 稀柳

さらさらのきよもまゝと表の南 は只 木壺
 嬉しき花露もなるの秋の露 梅志
 花織ももゆる時と奥なる子ゑ 寺在 花水
 枯れもおろけの日の影の南 美石
 涼しき残月もさるる月の月 後山
 たまはるる初月の初月の月 八子年
 おきさるる初月の初月の月 美石
 心をなやませるる月の月 徒作
 月とさるる初月の初月の月 徒作
 月とさるる初月の初月の月 徒作



虫やう袖のあきし 塚の翁 四律 謝月女
 結請なむ花 捨子のあきし 七古 東石
 ちるる一葉のあきし 七古 柳月
 このあきのあきし 七古 井山
 あきさきし 七古 高城
 こも新けあきし 七古 蒲柳
 池あり 七古 牛鳴
 枝もあきし 七古 笑々
 思ひもあきし 七古 七六
 いまもあきし 七古 里中

樹への葉はちたきすのぼるが 長平
 露へのふゆとさうらうのしづ 月橋
 塚のさひる五十年なるまくれの 騎猪
 遠くたるほとえり流るらきの水 五楓
 いろふぬねや一るあ十年 里堂
 とのちぬくともたうく 細代寺 芋壺
 変りのくまらうのあう月之影 ^{イカ} 正山
 杖のなを跡くく菊の白ら ^{イカ} 古者
 香を跡く女香塔りうまの ^{名并} 竹雪
 五十年の四うか ^{イカ} 貴青

田

画の書とよしとさうり 体乃枝 長瀬
 吹込も葉の香けり 蒼山
 りあいとて起るのま ^{イカ} 月輝
 子ゆくと ^十 壺のあ ^六 穴空
 常盤のねま ^{イカ} 是は 次中のま 芦雪
 何れ吹も ^{イカ} 塚の ^{イカ} 芒うな 春調
 思ひある ^{大板} 月 ^{イカ} のや 巴童
 葉の ^{イカ} 中 ^{イカ} のま ^{イカ} 尾 ^{イカ} 糸 ^{イカ} の ^{イカ} 形 池板
 葉すき ^{イカ} 仲 ^{イカ} の ^{イカ} や ^{イカ} 賑 ^{イカ} い ^{イカ} さま 松竹
 いまも ^京 移 ^{イカ} ず ^{イカ} ま ^{イカ} の ^{イカ} 風 ^{イカ} 平 ^{イカ} と ^{イカ} の ^{イカ} 可 ^{イカ} なる 茗於

昔埋すまおや古一の孫あらしも 温井
 昔こもや今も志おれの極 詣 子鶴
 けるもや志おれかまもひりふ 一 歌
 流れ波指の月や法四のまね 一 書
 けるてもさうしそくく西の海 昔枝
 夕立や蓮の志禁又たむけぬ 一 札 旭
 石や海川嘉納ゆくあふの月 其朝
 汗りふと志おれハ月何ぞ藤の中 希栞
 得るいとくりふ (志 昔の花 錦水
 いく秋成るもそもや塚の昔 到帆

昔お是と簾中啼や序の法 伊母 考樹
 珠粒玉の象しかさうて彼星武 一カ 其音
 悔の多うりく移る昼は月 東里
 何となく悔しけりあふもそもひりふ 津軽 箕年
 戸口傳は馬といぬや悔のそる 一カ 其色
 有明の志もさあしそめきぬふ 一カ 風軒
 名月ハ入りても法のうさ 一カ 竹窓
 昔さや今も昔は月の 一カ 一山
 昔さや今も昔は月の 一カ 五橋
 昔さや今も昔は月の 一カ 月坡

極楽此風をたてまの蓮乃花 和名知 祐花 イセ
 雲をまじりてくまの掃や塚のま イセ 菱草 ハシ
 ともも程このまのまのまのま イセ 梅草 ハシ
 小のまのまのまのまのまのま 東武 井木 イセ
 きぬのまのまのまのまのま イセ 桂外 イセ
 枯るまのまのまのまのま 上 作山 イカ
 木のまのまのまのまのま イカ 泰山 イカ
 竹梅をまのまのまのま 上 氣月 イカ
 葉のまのまのまのまのま イカ 徳雪 イカ
 名もやこのまのまのま イカ 寸馬 イカ

惨火あくをまのまのまのま 尾陽 月底 尾陽
 花のまのまのまのまのま 沙路
 秋のまのまのまのまのま 風也
 四方のまのまのまのまのま 旭嶂
 側へまのまのまのまのま 而后



まのまのまのまのまのま 芦花
 虫のまのまのまのまのま 魯月
 茅のまのまのまのまのま 月石
 竹乃のまのまのまのまのま 左琴

廿日とすゝい暮中より耳傾く

双葉

啼虫乃声を幽くやるは秋

求古

けしき事長きも向人女帝系

賀国

可も道乃ちあふり若むや糸廿七

草子

よ同と一とあふ一ちや塚のま

金波

拙考は阿まの竹とて揺り病々

そらら〜あやを極ま〜は息有

とあや〜〜〜〜〜はあは〜その〜

〜〜〜〜〜一五十二迄〜〜〜

〜〜〜を〜〜〜はゆふつ〜〜〜好人を

さ〜〜〜の〜〜〜い〜〜〜あんきり

狂ほのせと秀流のせ方〜〜〜といのれ

りぬいあれ〜〜〜の希を〜〜〜

下六

枯き程道のゆ〜〜〜尾糸うま

希色

え保のわ〜〜〜程分在世のわ〜古園の

門人多きう才もし手う家け伯父

〜〜〜あ〜〜〜ま〜〜〜あ〜〜

累代御筆お志をか〜あけき〜なす

〜〜〜〜〜遠慮の〜〜〜は〜〜

懐〜〜〜〜〜

かま〜〜〜〜〜秋波も〜〜〜月

遠水

あ〜〜〜の4月〜〜〜程箱百五十二

あ〜〜〜あ〜〜〜〜乃仲秋〜〜〜川上

あ〜〜〜あ〜〜〜〜あ〜〜〜〜あ〜〜

古口の結女〜〜〜は〜〜〜て〜〜〜あ

報恩をさかん遠近の雅るく
字付くも二條のまらけり
まらけりをるの集として
ねせりのとさんるをさか
つゝもももいひけり
とて懐向の白を備ふる

おとを洋させもるる秋の
踏秋

天保十四年癸卯正月

蕉門書林
京都寺町通二條下ル
橘屋治兵衛

書林
伊賀上野本町
西澤長兵衛

